

自学共育

子どもが**主体**の学校づくり

栄小中合同通信No.18 2025. 12. 9

来年度の児童会・生徒会、こうしていこう！

11月から始まった「来年度の児童会生徒会」の子どもたちの話し合いは、6回の共育タイムの時間を使って行ってきました。そして、来年度の方角が決まってきました。



話し合いのスタートは、いつもみんなで輪になって全体で顔を合わせます。話し合いをリードする先生とともに「前回までの話し合いの振り返り」や「話し合う理由や意味」について確認したり「この時間の話し合いで、何をどのようにどこまで考えるか」を確かめたりします。そして子どもたちの話し合いが始まります。



子どもたちの話し合いが始まると、小学生も中学生も互いに自分の考えを自分の言葉で伝え合います。小学生の意見をじっくり聴いてうなずいている中学生、中学生の前でも自分の考えを堂々と話す小学生、小学生の意見を復唱し「～ということだね」とまとめている中学生、中学生の意見を聴いて「そうかあ!」「でも自分は…」と自分の考えをつなげる小学生…。隣同士での意見交換や小グループでの話し合い、全体発表での意見交流と、様々なパターンで話し合いを行いました。子どもたちは一人ひとり自分な

りに話し合いに参加しました。

そして、先週水曜日、6回目の話し合いで、次のような方向を決めだすことができました。



リーダーの形

- ・ 固定の児童会長や生徒会長はなし

児童会・生徒会の形

- ・ 必要な時に必要な委員会を作りメンバーを集める
- ・ 必要な活動については4月より前にチームを作る
- ・ 一人に対してどれくらいの仕事が良いか考える
- ・ ○か月に一度話し合いをする→更新

この話し合いでも、何度も手を挙げて意見を言う子、顔を上げて友達の発言を一生懸命聴く子、うなずく子、いろいろな姿がありました。また、今まで発言をしたことがなかった子が手を挙げて自分の考えを発表しようとする姿もありました。話し合いが進んでいく中でその子にとってこの話し合いが「自分ごと」として感じられ、気がついたらこの話し合いに主体的に参加していたのでしょう。

その子にとっての「変化」の一つだと嬉しく感じた場面でした。

こんなことを工夫していくぞ！

意見が出なかったり、まとまらないときは

- ・ 小さなグループの中で自分の考えを話すことも大切にする。
- ・ 進めることが得意な人に司会進行をお願いしても大丈夫。
- ・ 立ち止まっても友だちと話せば大丈夫。

同じ人ばかりが仕切ったり、誰もやりたがらないときは

- ・ 自分の考えが出ない時は「ありません」「考え中です」。
- ・ 不安な人の代わりに周りの人が話すこともOK。
- ・ 全員が話しやすい環境を作る。

小学生と中学生がお互いに遠慮してしまうときは

- ・ まずはみんなで仲良くなるためにいっしょに遊ぼう。
- ・ 小学生、中学生が交互に意見を出してみる。
- ・ おたがいの「ありがとう」を大切にする。

それぞれの活動にメンバーを集まらないときは

- ・ 集まらなかったら全校のみんなに声がけをする。
- ・ 本当はやりたいけど、不安で声を出せない人は周りの人がかわりに話してあげる。
- ・ 1人1回は活動ができるように。

さあ自分たちの番！

どんな活動をやりたいのか声をあげよう！

また、この方向づけは「全員による合意形成」を大事にしました。子どもたちはアンケート方式で自分の考えを投票しますが、そのまま「多い方で決定」（多数決）にはなりません。「少ない方へ投票した友だちの意見を知り、その意見も踏まえて互いの意見を尊重し、より良い方向を考える」ことを大事にしたからです。

互いの考えを知った上で、いくつかの「心配されること」が子どもたちの中から出てきましたが、その解決方法も話し合いました。

～今回の話し合いでの先生方の姿から～

6回の話し合いで来年度の方向づけの第一歩を進めることができた今回の話し合いですが、この子どもたちの話し合いに向けて、先生方は事前に何度も打ち合わせを行い、その時間の話し合いの目的、進め方や必要な資料等を準備し、話し合いの土台を作りました。

また、互いの意見を交流しやすいように子どもたちの座る場所をアドバイスしたり、子どもたちの話し合いの中で一緒に頷いたり、子どもたちの発言を繰り返したり問い返したりしながら、子どもたちが安心して自分の考えを発言できるよう支援しました。

今後も子どもたちの話し合いの場面があると思いますが、私たち教師は「子どもに任せる」ための事前の準備を行い、今回のように話し合いの土台作り等の支援を適切に行いながら、子どもたち主体の話し合いを支えていきたいと思っています。

新しい学校づくりに向けた教師によるプロジェクトも始まっています。私たち教師自身も、子どもたちのこの姿のように、互いに「聴く」「伝える」「認める」ことを大切にし、合意形成を目指しながら新しい学校づくりに向けて準備を進めていきたいと思っています。

【文責：神田 由美子】